

POLICY BOOK

JA 茨城県青年連盟 ポリシーブック 2023



JA YOUTH IBARAKI

茨城県農業協同組合青年連盟

J A 茨城県青年連盟ポリシーブック 2023 策定にあたって

茨城県農業協同組合青年連盟 委員長 萩谷 龍司



県青年連盟の委員長の萩谷です。委員長となってまだ日は浅いですが、県内の盟友や、全国の盟友と交流を深めることで、青年部活動への理解を深めてきました。ポリシーブックは、我々青年農業者が自らの課題や疑問などを持ち寄り、解決策を議論し、実践するための活動方針集であり、同時に政策提言集でもあります。

課題や問題に対して、我々自身に取り組むべき「自助」、J Aグループとともに取り組む「共助」、行政への提言である「公助」という解決策を示した内容になっています。

農業を取り巻く環境は、世界情勢の不安定化による燃料価格や資材の高騰など、非常に厳しい状況と言わざるを得ません。そのような環境において、本連盟においても我々青年農業者の生の声を発信すべく、我々が抱える課題等を絞り込んだ茨城県版のポリシーブックを作成しました。

価格高騰の影響は我々だけでなく、消費者にとっても身近な問題となっている今、安心・安全な日本の農畜産物がこれからの未来にも残り続けていくため、「食料安全保障」についても、継続して議論を進めていく必要があります、

J A 茨城県青年連盟は、食の安心・安全を食卓へ届けるため、日々の営農活動からの課題等の積み上げにより構成されたポリシーブックを通じて、今後の明確な営農・地域ビジョンを構築していきます。多くの人との対話を通じて、共に茨城農業の未来を築いていきましょう。

2023年10月

目次

1	補助事業について	2
2	農業支援体制について	3
3	担い手対策について	4
4	農作業安全確保について	6
5	販売力強化について	7
6	若手農業者の意見反映について	9
7	青年組織強化について	10

1

補助事業について

<課題・疑問・不満>

- 青果物に関する補助制度が少ない。
- 現状の営農を継続するための支援が不足している。
- 補助金制度利用のハードルが高い。
- 補助金制度を全て把握できていない。

<解決策>

◆ 青年部 ◆

- ✧ 有機資材など、補助金対象となるものを取り入れる。
- ✧ 学習会を開き、制度の有効利用を促す。

◆ J A ◆

- ✧ 補助金制度などをこまめに広報紙等で発信する。
- ✧ 補助金制度について、行政との情報共有を強化する。

◆ 行政 ◆

- ✧ 新規・規模拡大に対する支援だけでなく、営農継続のための既存の施設改修や維持に対する助成措置を行う。
- ✧ JA等関係機関への情報発信の迅速化

＜課題・疑問・不満＞

●JAの営農部門が属人的になりがちで、配置換えなどで知識・技能の引継ぎがうまくいかず、産地の弱体化や営農の停滞につながっている。

＜解決策＞

◆青年部◆

✧担当者への声掛けや、部会運営等積極的に職員との関係作りを心掛ける。

◆J A◆

✧品目ごとのスペシャリストの育成・確保。

✧担当者の引き継ぎ体制の確立。担当者が変わる際に、最低1～2ヵ月程度は前任者との同行期間を設けるなど、生産者側に立った対応をとる。

✧営農担当職員数の増員。品目ごとに主担当者とサブ担当者を設置する。

◆行政◆

✧普及センターとの連携事業に取り組み、官民一体となって農業支援体制構築に取り組む。

3

担い手対策について

<課題・疑問・不満>

- 農業は大変なイメージ（3Kなど）が強く、なかなか就農者が増えない。
- 農家に嫁が来ない。
- 従業員確保が難しく、人手不足となっている。
- 農業の規模拡大には雇用が必要だが、外国人実習生だと初期投資の負担が大きい。
- インボイス制度導入により事務が煩雑となる。
- 経営分析を行い、可処分所得の向上を図りたい。

＜解決策＞

◆青年部◆

- ✧地域住民や異業種（４Ｈクラブ等）との意見交換を行う。
- ✧SNSなどを利用し、農業のイメージアップを図る。
- ✧販売会等を実施し、消費者と直接触れ合う機会を設ける。
- ✧働きやすい職場づくりを行い、職業選択肢の1つに挙げられる職業にする。
- ✧青年部で雇用についての学習会の場を提供する。

◆ＪＡ◆

- ✧婚活事業の実施や、婚活サイト登録料の補助を行う。
- ✧全農運営の「農How」や、求人サイト「いいものいっぱい茨城の農業とJAで働こう」などを活用する。
- ✧インボイス導入に向け、簡素化のための要請活動等に取り組む。
- ✧ＪＡが会計記帳代行事業の充実を図るとともに、総合情報システム（販売・購買）等の経営分析ツールを活用した農業経営コンサルティングを実施する。
- ✧雇用に関する学習の場を提供する。

◆行政◆

- ✧農業のイメージアップにつながり、農村に人を呼び込めるような地域活性化が出来る企業を誘致する。
- ✧農業者に対する特別な融資・補助事業について、生産現場が使いやすい制度となるよう、さらに強化する。

<課題・疑問・不満>

- 農機具の操作ミス等によるケガや、死亡事故が起きている。
- 農機具の基本操作や安全マニュアルを学ぶ機会が少ない。

<解決策>

◆ 青年部 ◆

- ✧ 農業機械の安全使用や、メンテナンスに関する研修施設などの案内を行う。
- ✧ 青年部が積極的に声掛けし、農作業事故を未然に防ぐ活動を行う。
- ✧ 自ら労災保険特別加入制度（農業）へ加入する。

◆ J A ◆

- ✧ 新規就農者等の機械に不慣れな農家に対し研修を行う。
- ✧ 農機具の供給時に労災加入などを説明、促進する。
- ✧ 農作業中における事故などの情報発信や注意喚起を行う。
- ✧ 農機具メーカーに更なる安全向上のため、危険性があれば情報提供を行う。

＜課題・疑問・不満＞

- 世界情勢の不安定化などを受け、資材が高騰している。
- 市場に対しての茨城産の農産物のアピールが弱いと感じる。
- 農畜産物の高騰ばかりがメディアで取り上げられ、価格低下の際の取り上げられ方が弱いため、消費者への発信に不公平感がある。
- 資材高騰分のコストが農産物の販売価格に転嫁できていない。

＜解決策＞

◆青年部◆

- ✧直売会等を行い、自ら農産物をPRする力をつける。
- ✧活動内容をSNSなどで発信する。
- ✧自らの農産物の“味”で勝負する。

◆ J A ◆

- ✧市場の担当者との意見交換の場を設け、生産者の声を直接聞くよう求める。
- ✧メディア（JA広報誌や新聞、地元テレビ局など）を利用し、農畜産物のイメージアップとブランド力強化を図る。
- ✧茨城ブランドの確立を図る。

◆行政◆

- ✧外部へ強力に発信するために、茨城県の農畜産物 P R 大使を作る。
- ✧メディアへの売り込みや、市場でのトップセールスなどを行いブランド力強化を図る。
- ✧ブランド力の向上や、茨城県の魅力度アップに取り組む。

＜課題・疑問・不満＞

- JAの運営や地域農業の中で若手農業者の意見が重要視されていないと感じる。
- 若手農家の意見を反映させる場所がない。

＜解決策＞

◇青年部◇

- ✧青年部枠の理事、地区理事への青年部員登用に積極的に取り組み、現場の生の声をJA運営に反映させる。
- ✧JA役員や議員との意見交換会において、積極的に発言出来るよう日頃から問題意識、課題意識を明確にしておく。
- ✧イベントを開催し、消費者やJA職員との交流の場を作る。

◇JA◇

- ✧若手農業者の意見をJA運営に反映させるため、青年部理事枠等の設置する。
- ✧JA役員と定期的な意見交換の場を設定する。

◇行政◇

- ✧地元選出の議員等との定期的な意見交換の場を設定する。

＜課題・疑問・不満＞

- 盟友数が増加しない。
- 活動がマンネリ化してしまう。
- 青年部活動を通して得られる農業経営やその他の知識、同業・他業者との交流、社会人としての成長など、目には見えない価値の共有が出来ていない。
- ポリシーブックが浸透していない。

<解決策>

◆青年部◆

- ✧自ら考え自ら行動する事を意識し、青年組織綱領の実現を目指す。
- ✧地域の未入部青年農業者に対し、積極的に声掛けを行う。
- ✧青年部ブランドを確立する。
- ✧女性部などと交流を行い、新しい活動展開を行う。

◆ J A ◆

- ✧加盟メリットを打ち出せるようにする。具体的には、青年部独自の貸付金利優遇措置や共同利用できる加工所などを設置する。
- ✧ポリシーブックを活用した研修の実施や、青年部の活動計画に反映させる。
- ✧未加盟JAに対し、青年部活動の情報提供や懇談会などを行う。
- ✧イベント出店や人間ドック、婚活サイト登録料補助を行う。

令和５年度ＪＡ茨城県青年連盟役員

役職名	氏名	出身組織名
委員長	はぎや 莉ゆうじ 萩谷 龍司	常陸
副委員長	すがや かずひろ 菅谷 和博	茨城旭村
〃	おおぬき よしゆき 大貫 善之	水戸
委員	むとう しょうへい 武藤 翔平	常陸
監査委員	くぼき しげる 久保木 繁	なめがたしおさい波崎
〃	しまだ じゅんいち 島田 淳一	なめがたしおさいなめがた
参 与	ながさく よしあき 永作 善亮	なめがたしおさいなめがた
〃	きくち つねあき 菊池 常昭	常陸
〃	たかす たかひろ 高須 貴宗	なめがたしおさいなめがた

県内単組織役員および盟友数

組織名	氏名	盟友数
水戸	はなわ まさき 塙 正樹	１０９
常陸	きくち つねあき 菊池 常昭	８８
茨城旭村	しばた やすゆき 柴田 康行	３９
なめがた	みのわ まさる 箕輪 勝	５７
波崎	たぬま ひさや 田沼 久弥	１８

- MEMO -

A large rectangular area defined by a dotted teal border, intended for writing a memo. The background features light blue and teal abstract shapes.

J A 青年組織綱領

我々JA青年組織は、日本農業の担い手としてJAをよりどころに地域農業の振興を図り、JA運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

（注釈）本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである（平成17年 3 月10 日制定）。

農業で日本を元気に!



 JA YOUTH